

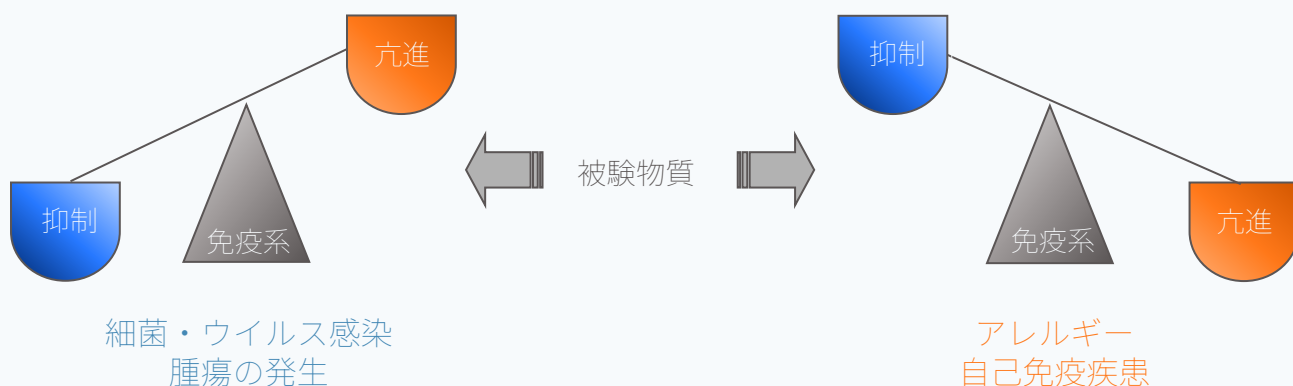
免疫毒性試験

免疫毒性試験の必要性

免疫系は細菌やウイルス等の外来の病原体や腫瘍を排除するなど生体防御上重要な役割を担っています。

この免疫系のバランスが抑制に傾くと感染症や腫瘍が発生し、亢進に傾くとアレルギーや自己免疫疾患に陥ります。

被験物質によって免疫系のバランスが崩れていないかを調べるために、免疫毒性試験を実施する必要があります。



免疫毒性試験を実施するケース

- (1) 一般毒性試験で免疫毒性の可能性が示唆された場合
(血液学的変化, 免疫系器官重量および組織像の変化, 血清グロブリンの変化, 感染・腫瘍の発生率の増加)
⇒弊社ではこのケースが最も多いです。
- (2) 薬剤の薬理学的性質が免疫機能に影響を及ぼす可能性がある場合
(抗炎症剤, 抗うつ剤等. 免疫抑制剤など意図的に免疫系を調節する薬剤はガイドラインの対象外です.)
⇒このケースも経験がございます。
- (3) 適応の対象となる患者集団が免疫不全状態の場合 (抗HIV剤等)
- (4) 既知の免疫調節剤と構造が類似している場合
- (5) 免疫系細胞に高濃度に蓄積する場合
- (6) 臨床所見

●お問い合わせ／資料請求はこちらまで

メディフォード株式会社 www.mediford.com

[東京] 〒174-0053 東京都板橋区清水町3 6 番 1 号

非臨床事業部 tel. **03-6905-5861**



「生きていく」を明るく、前向きにする。



mediford
A Member of PHC Group

- (1) 免疫毒性の標的が特定されていない場合
⇒**T細胞依存性抗体産生能（TDAR）**が最もメジャーです。
抗原提示細胞，**T細胞**および**B細胞**など複数の免疫細胞が関わるため，
生体の免疫機能の良い指標となります。
- (2) **TDAR**に関与しない特定の細胞が影響を受けた場合
⇒**NK細胞**の細胞傷害活性や好中球の貪食能などの機能検査
- (3) 影響を受けた細胞集団の特定
⇒リンパ球サブセット測定（イムノフェノタイピング）

受託可能な免疫毒性の測定項目

